

老健たより

第8号



明るい笑顔、大事にしたいです。

平成7年度をふりかえって	2
第3回老人保健施設研究発表会	3、4
訪問看護部より	5
介護シリーズ—水分の必要性—	5
行事紹介 H 7.10月～H 8.1月まで	6
編集後記	6

平成七年度をふりかえつて

公立八鹿病院老人保健施設

施設長 谷 尚



次にデイケア（通所者）も増加して延人員が三千人となりました。一日平均十四人になります。昨年まではデイケアのP.R.が今一つでありましたので、昨年四月より一日平均十五人を目標にしてその目的をほぼ達成いたしました。今後の問題としてはデイケアの利用者が七十八町に及び、送迎時間を考えることが今後の課題であります。

公立八鹿病院老人保健施設も今年で四年目を迎えました。今だに老人保健施設は但馬では唯一の施設ですが利用者も年毎に増加してまいりました。

昨年一月より十二月までの一年間の利用者は約七百名近くになり、そのうちのショートステイは約二百二十名であります。利用者数が増加したこととは入所期間は一応三ヶ月であります。当施設では一ヶ月から二ヶ月の利用が非常に多いということです。一人で年に二と三回利用される方も増加してまいりました。入所者が施設を上手に利用されていると思います。

公立八鹿病院老人保健施設も今年で四年目を迎えました。今だに老人保健施設は但馬では唯一の施設ですが利用者も年毎に増加してまいりました。

老健においては、昨年よりリハビリの充実に最も力を入れております。理学療法士による午前と午後のリハビリと毎日午後四時から一時間の作業療法士によるリハビリであります。デイケア利用者もリハビリを中心とした計画をたてての訓練になっております。

老健においては、昨年よりリハビリの充実に最も力を入れております。理学療法士による午前と午後のリハビリと毎日午後四時から一時間の作業療法士によるリハビリであります。デイケア利用者もリハビリを中心とした計画をたてての訓練になっております。

老健のデイケアとショートステイをミックスしないとうまくいかないこともわかつてあります。

で痴呆や骨折、心疾患、神経難病などがあります。然しながら入所者及びデイケアの四十と五十%は痴呆が占めています。之等の痴呆に対しても施設では在宅での生活がなんとかできないかといろいろ工夫をこらして対応しております。全痴呆の人をよくすることはできませんが、軽度、中等度の痴呆が、これ以上進行しないようにするにはどうしたらよいか、又問題行動（徘徊、不潔行為、暴力、盜み）のある人に對して鎮静剤を使用せずにどこまで対応できるかを少しづつではあります。しかし、とりくんでおりまして、その成果もみられてきました。

今までの介護は家族に大きく依存していたために、家族が介護のために疲れはててしまう。介護者の都合によりお年寄りが生きがいをなくすという事が起きていたと思われる。いざ自分が介護する側・される側になつてから、これは大変だと気づくことが多い。

八鹿病院併設の老人保健施設、地域の方々の大きな期待と注目の中、リハビリテーション、看護、介護を通して生活の自立を支援し住みなれた家庭や地域に復帰できる通過施設を目指してオープンして四回目の新年を迎えることができました。

施設の利用者は年々増加しており、希望通りの利用ができるのが現状です。家庭の用できないお年寄りには、自宅までうかがいます。

新年を迎えて

管理課長 本谷国雄

但馬地方の高齢社会は日本の二十年先を進んでいると言われております。当施設も入院だけのデイケアと在宅療養を組み合わせ幅広く、自由度の高いサービスでお年寄りの

生活を支える介護を介護者が選択していただきそれに対応できる施設をめざしております。八鹿病院併設の老人保健施設、地域の方々の大きな期待と注目の中、リハビリテーション、看護、介護を通して生活の自立を支援し住みなれた家庭や地域に復帰できる通過施設を目指してオープンして四回目の新年を迎えることができました。

今までの介護は家族に大きく依存していたために、家族が介護のために疲れはててしまう。介護者の都合によりお年寄りが生きがいをなくすという事が起きていたと思われる。いざ自分が介護する側・される側になつてから、これは大変だと気づくことが多い。

退院後のリハビリテーション、介護者の病気・介護疲れと御支援により職員一同頑張りますのでよろしくお願ひいたします。



第3回老人保健施設研究発表会

[日 時] 平成7年11月24日（金曜日）
午後5時15分より約1時間15分
[場 所] 病院第1・2会議室

《演題及び発表者》

『座長 杉谷 明則・竹枝 芳恵』

1. 家庭退所後の社会資源の利用状況
○橋本はづき
2. 当施設におけるデイケアの取り組み
—なでしこ会を通して—
○旗谷多香子・古川 綾子
3. 病院と老健のリハビリテーションの連携
—事例をとおして—
○北見 珠紀・日下部富江
片岡みどり・古川 綾子・西田三代子
4. 精神症状の強い痴呆性老人を介護して学んだこと
—事例をとおして—
○田村美佐子・石田 逸子・北垣 和代
旗谷多香子・古川 綾子
5. 施設でのリハビリテーション
○今井 秀樹

平成七年十一月二十四日に
公立八鹿病院会議室に於いて、
第三回老人保健施設、研究発
表会を行いました。当施設も
四年目を迎えより多くの方に
利用されました。その中で学
んだ事をこれから日々の業

務に生かし、利用者の生活を
より充実したものにしていくこ
うという、スタッフの熱意が
伝わる発表会でした。

第二回老人保健施設 研究発表会

精神症状の強い
痴呆性老人を
介護して
学んだこと

田村美佐子



（はじめに）

痴呆老人に対して、痴呆の
精神症状の改善や問題行動を
抑制するために、安易に薬物
投与による沈静化や抑制が行
なわれやすくなっている。し
かしこの事が転倒、転落事故、
A DLの低下を招く原因とも
なっている。

今回、徘徊、興奮などの痴

呆症状が強く、向精神薬、睡
眠前薬を投与された寝たきり
状態となっていたNさんにレ
クレーション、精神療法的ア
プローチにより異常行動が軽
減され、A DLが向上した事
例を報告する。

（事例）

Nさん、88歳、女性
二年前多発性脳梗塞発症、
痴呆症状出現

（問題点）

1、痴呆状態、認知障害に関
連したせんもうの兆候、尿
便失禁、転倒の危険性があ
る。コミュニケーション障
害がある。

（まとめ）

痴呆の精神症状の強いNさ
んを介護して学んだこと。

①向精神薬中止後は、こ
まやかな観察と対応が
必要である。

②精神的安定を図ること
によりA DLが向上し
た。

③問題点をチーム内で共
有し、一つ一つケアプ
ランを立案計画してい
くことが重要である。



当施設における デイケアの 取り組み

—なでしこ会を通して—

旗谷 多香子

〈はじめに〉

在宅ケア支援施設として老人保健施設のデイケアは、平成五年七月より、主に障害者老人の自立度B、Cランクの人を対象として開始した。

開始後二年経過し、登録者二三一名、一日平均十五名の利用者がある。利用者は在宅酸素者、痴呆性老人、障害者老人等がある。

診察、リハビリ、痴呆ケア、自宅での閉じこもり症候群予防など個々のニーズに合わせたケアを実施している。

今回当施設におけるデイケアの取り組みと経過を報告する。

〈まとめと課題〉
① 痴呆性老人にとって、デイケアは仲間作りの場であり社会的活動の場である。

② デイケアのニーズが高まり、多様化し個々に合わせたケアのプログラム作りが必要である。

③ デイケアを通じての家族指導が重要である。

〈結果〉

デイケア利用者延べ数は、増加の一途をたどり、平成七年八月には、月三一六人で一年平均十五人となっている。在宅酸素者、痴呆性老人等、

A DL別には、A・Jレベル五六%を占めている。医療処置別にみると経管栄養、排尿カテーテル、気管切開の方が十二%をしめ、重介護の人方が在宅で生活していることがうかがえる。

診察を兼ねての利用者が多くなっている。また、日中介護者不在のため毎日利用される方もある。



デイケア 風景



医師をまじえて、家族の介護相談会



レクリエーション



リハビリ



体温・血圧測定



手巻ずし



カルタ取り



生花

がんばって
しましよう。

訪問看護婦の つぶやき

南但訪問看護センター

早崎 美和子

山あいの道をひとしきり走り、坂道を上ると畠がきれいに刈られていって広い景色が見わたせる。土地が少し高いせいか少しひんやりとした、しかし体が洗われるような澄んだ空気に包まれる。その集落の初めにKさん夫婦の家が

「オーオーイも言わんようになりましたわ。何も言わんとかえって心配で。」

Kさんを介護する高齢の妻は体を小さく丸めて、伏目がちに話した。Kさんは二年前多発性脳梗塞を発症し、以後つたい歩きの状態であったが、老夫婦二人暮らしの生活に不安が多く、T診療所からの指示で訪問看護が始まった。私が二人と出会った頃は、介助で老人車を押して移動し、食卓で食事を共にすることができた。一週間に一回のデイサービスには二人そろって顔を見せた。少しずつ関節拘縮が進んでいたので、リハビリの時

には、体に似合わず大きな声がで驚かされた。何度も熱発をくり返すうち、立位は不可能となり寝たきり状態となってしまった。Kさんの口元に妻はいつしょうけん命粥を運んだ。しかし寝たきりのKさんは昼と夜の区別はない。昼中寝ていては夜半に起きて妻を呼び、その日の一度目の食事をとらせたり、訪問すると

「途中でねてしまつて食べませんでした。今日を覚ましたので温め直して食べさせようと思って。」と笑って膳を片付ける場面も何度かあった。

私がするにすぐに上をむいてしまうんですよ。」と笑を浮かべながら話す。当然のことである。棒のようになってしまったKさんの体位変換を行なうことには、背中の曲がった小さな妻にとって並大抵のことではない。ひかえ目な口調でもかもけっしてグチをこぼさず夫の世話を細々と行なう。しかし、いつまでも同じ状態は続かなかつた。Kさんの嘔下機能はおとろえ、咳嗽反射もかなり弱っていた。ある日Kさんは高い熱をだした。脱水状態となり病院に入院し、鼻

にチューブが入り経管栄養が始まつた。一命をとりとめ退院したKさんには吸引器も必要だった。地域により密接に、白衣を脱いでの往診であつた。

寝たきりになつたばかりの頃訪問の際、往診に来られたT診療所の先生と会う機会があつた。地域により密接に、白衣を脱いでの往診であつた。

「おいさん、どうや。」先生はKさんの診察を終えた後私達にも話しかけられた。

「この人のQOLってどんなもんやろう。」私は訪問の際に行なつていた車イス散歩のことを話した。

「いや、そういうことではなく、食べる事とか……。」一人ごとに話されたことばが脳裏に焼きついた。本当にこの人のQOLって何だろう。ごく普通の生理的なことを忘れてしまつてはいいのか。もちろん歩けなくなつたKさんに外の景色を見せて上げることも価値のあることである。しかもそれが機会に夜間も必要なだけは、最低摂るようにして下さいね。

二人の現在の生活は、診療所の医師看護婦、ヘルパー訪問、デイケア、訪問看護、訪問などにより支えられている。問りハビリ、歯科衛生士の訪問などにより支えられている。

そして何より疎遠になりがちだつた子供さん達が毎日のよう足を運んでくださることに安心を覚える。嬉しいに衰えていくKさんと小さくなる妻を目あたりにしながら、妻を目のあたりにしながら、生きている喜びは何かを考えさせられ、それを支える人達が同じ思いで関わることの大切さを感じる毎日である。

「また、トイレに何度も起きてしまつてはいいのか。もちろん歩けなくなつたKさんに外の景色を見せて上げることも価値のあることである。しかもそれが機会に夜間も必要なだけは、最低摂るようにして下さいね。

身体の水分が不足すると、便祕になりますので注意して下さい。老化により腸の働きが悪く力も弱ります。不規則な食生活や運動不足によるものもありますので、野菜は一度ゆでて、せんい質の物も取り入れて下さい。

血液も濃くなり、血管もつまり易くなります。ほら、

「また、トイレに何度も起きてしまつてはいいのか。もちろん歩けなくなつたKさんに外の景色を見せて上げることも価値のあることである。しかもそれが機会に夜間も必要なだけは、最低摂るようにして下さいね。

介護シリーズ (なぜ水分は大事?)

人間誰でも必要ですが、特

にお年寄りには、十分摂つてほしいです。水分を摂らないとまず脱水症状を起こします。

ほしです。水分を摂らないとまず脱水症状を起こします。

お年寄りには、十分摂つてほしいです。水分を摂らないとまず脱水症状を起こします。

お年寄りには、十分摂つてほしいです。水分を摂らないとまず脱水症状を起こします。

お年寄りには、十分摂つてほしいです。水分を摂らないとまず脱水症状を起こします。



その1

ふうふうして
飲むと
心地よ

おーしてね
お茶を

ボカボカじゃよ

ちょっとと体を動かすと:
汗をかいちゃうだけ
それがけつこうかいるのよ

そのあと水分補給を
ダメなのよ

その2

ふーん

◇行事紹介◇

第3回文化祭（11月）



パネル展示
お茶会

秋の大運動会（10月）



入所者と職員一
緒
大きな口をあけ
て
笑つた芸能祭



H8 新年会（1月）



新年あけまして
おめでとう
ございます

かわいい園児さんと一緒にあそんだ
楽しい一日



今年も又、一年
良い年でありますように
新年会でおとそ
いたくよ



今年は明るいニュースが多
くありますようにと初詣でに
いきました。期待して下さい。

いつもお世話になります。
そして、今年も、これからも
人的心を思いやり、共に学
び、共に生きるやさしい手で
す、心です。

編集後記

編集後記

編集後記



太陽保育園
園児の皆さん
どうもありがとうございます



西口美和子（介護福祉士）
旧姓（田中）H8・2・15

お知らせ

【結婚】

西口美和子（介護福祉士）

旧姓（田中）H8・2・15

みんなで仲良く頑張ったね!!

はるばるフィンランドからきたサンタさん